



## 観光の拠点フェエスパ

## 就業の場フェスティバル

## 人材育成のフェンス

接客業というものは形だけまねで、もうまくやかないのは誰しも知るところだ。五月、グランドオープンした旧ゆげロッジの後を襲つた新しい離島体験交流施設「インランドシーリゾート・フェエスペ」。開店一ヶ月余で順調以上の客足のようで、まずは目出度い。一方でちらほら不評も耳にする。得てして不評の部分はダイレクトには当事者には伝わらないもの。それをどう受信するかでフェエスペの今後が決まる。

よくなつてほしいからだ  
耳にした不評は大きく分けて  
二つある。ひとつは従業員の接  
客マナー。もう一つは料理。  
「離島体験交流施設」と肩書き  
はいかめしいが、いわば温泉施  
設付ホテル。旧ゆげロッジとは  
設立の趣旨からして異なる。  
自然に恵まれた美しい島、上  
島町を広く多くの人に知つても  
らいこの施設が観光を通じ観光  
事業促進、地域経済活性の試金  
石になる」との意気込み（コン  
サルがめざしたもの）はよしと  
しつつも、では観光業にとって  
最も重要な接客と食事に得心が  
いかないとの評判が、初めから  
つきまとうようでは心許ない。

# フェスパで働いたことが財産になるように

大卒の2割が就職できない「時世」だという。どういう仕事に就くにしろ、求められるのは他者と上手くやつていけるかどうかだろう。

接客マナーと食事と

接客は全ての仕事の基本

この接客マナーについてはコンサルによる事前調査でも一番の問題点として上げられていたもの。施設のグランドオープニングに向けいろいろ研修したにもかかわらず、いまだ十分でないのなら、相当根が深い問題ではなかろうか。

食事については瀬戸内海の島であるにもかかわらず新鮮な魚料理のメニューの乏しさが上げられている。このことは当初から施設に関心のある人々の注目し、かつ期待してきたところだが、なかなか「なるほど！」とうならせるにはまだ時間がかかるようだ。

なれ合ひと新しさはぢかう  
他に同様な施設がないところ  
から選択肢のない地元の人々には、いきおいこんなものかとい

う甘い採点や、自己満足につながるのかも知れないが、施設で働く人の多くがお客様と知り合いというのも、自分たち自身の採点があまくなる要素だろう。親しい仲にも礼儀ありと言われるよう、それがために離れ合つてはタガがゆるむ。繁忙期でないときには地元の人が支える。そういう自慢の施設になるためにも、施設が地元との親しさにあぐらをかいてはだめだろう。

経営にあたる者、資金を出している者全てが、手前味噌な判断を廃し、最低限外来の利用者の声をすくいあげる仕組みをきつちりつくり、謙虚に耳を傾け、燃えて運営にあたることが、結果的によい評判を確立する近道のはずだ。

少しでもさわやかさと柑橘系のコロンを夫婦で供用している。会合の前に質の悪い汗を流してシユツとひと吹きで気分は爽快。これで会議の際には

まだ  
やがて  
も

気の利いた意見の一つも言えるわいと、ひどく勘違いしたまま出かける。

接客に関しては高専の学生もアルバイトに従事しているようだがフェスパで働くことで上等な接客マナーが身につくならそれはその人にとって大きな財産になる。世に出て働くにあたって、他者と接する技はどんな仕事でも基本中の基本だからだ。事業者が彼、彼女たちに接客する、ナースを徹底して仕込むことは、一人、学校そして施設共に喜ばしい実りを得ることにつながるにろう。コスト面にだけ目を向けるのではなく「人を育てる」、あらためて関係者の奮起を歓迎したいところだ。



阿部純子さん ギャラリー オープン  
島から世界につながる

弓削島にある上島町ケーブルテレビ局を右手に見て細い道を石山へむかって登って行くと、元学生寮だった2階建ての建物に行き着く。岩城にお住まいの画家阿部純子さんが6月5日に開いたギャラリー「MAMI & JUNKO」は、この

建物1階の一室にある。阿部さんの作風は、淡いバラの花の油絵でおなじみの方も多いだろうが展示作品は絵はがき、ガラス製品などにも広がり多彩だ。

宝石デザイナーの長女真子さんの作品、ネックレスや指輪などのアクセサリーも展示され、手ごろな価格のものもあって、販売もしている。

この建物を、若手芸術家や地元の若者達の交流の場にもしたいという純子さんは、また弓削島出身の洋画家奥中清三さん（パリ）、ほか近隣の大物画家の多くともじっこん。ことに渡仏40年の奥中氏の人脈と、彼の地での信用で、パリのモンマルトルのように、この地を世界の芸術家が集う場にするのを夢見ている。「わたし掃除が大好きんですよ」阿部さんが来るべき未来に向かいそいそと建物内の片付けに精を出されているのを拝見すると、夢を持つことの楽しさ、大切さを改めて思うことであった。（平山久子）

開館は土曜、日曜の午前 11 時から午後 5 時。入場料は 200 円（小学生以下 100 円）



# 弓削通信 フラッシュ

2011.7.15 №14 (通巻 141) Since 1991.6

発行者 平山和昭 ☎&Fax 0897-77-3072

〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生 318-2

メール yuguru3@ray.ocn.ne.jp

ツイッター http://twitter.com/yuguru

ブログ http://blogs.yahoo.co.jp/yuguru\_fish

発行支援 NPO「頼れるふるさとネット」 印刷 相方印刷(因島)

★安心な食材でおいしく安くを  
★安心な食材でおいしく安くを  
★安心な食材でおいしく安くを  
安心な食材でおいしく安くを

★安心な食材でおいしく安くを  
安心な食材でおいしく安くを  
安心な食材でおいしく安くを  
安心な食材でおいしく安くを

アットホームとは  
アットホームとは  
アットホームとは  
アットホームとは

NPO法人「頼れるふるさとネット」を立ち上げるきっかけをくれた岡八代美さんの運営する東京・渋谷区笹塚にある社会福祉法人中都(なかと)・岡八代美施設長では、今年四月から特養と保育の調理一元化を実行している。同施設に共存する保育園、「うさぎとかめ」、特別養護老人ホーム「つるとかめ」で、今年度から昼食をメインに○歳から一〇〇歳までの料りを特養、保育が合同になって作っている。

★特養・保育の枠をなくし○歳から一〇〇歳までの食事をつくる新しい試みについて経験したことのないことを勉強できるので楽しみ(藤野さん)  
★家族の食事だと思つたらOKなのがな。家族が一緒になら普通のこと(小平さん)などと三名のスタッフはとても意欲的だ。

## 特養と保育の調理一元化

時代が変わればニーズも変わる。その時々の「最適」さがしに取り組めるのも、実は最前線だからこそだ

## 「給食」ではなく「ごはん」を

### うさかめ・つるかめ 給食だより

社会福祉法人中部 給食 2011年6月1日発行

特養と保育の調理を一元化します!

今年度より給食の特養(特養・保育)調理一元化が始まりました。昼食をメインに、0歳から100歳までの料理を特養・保育が合同になって作ります。



●岡八代美さんの活動拠点(特養&保育園) 2011/06/24 13:19  
では、入所者の作品展が開催されていた。

主催:黒瀬市因島フリーセンター

**因島 7/16~8/28**  
サマーフェスティバル



時間/16:00~17:00  
※観覧無料(入園料別途)  
因島ヒマワリ祭りの植栽にも注目!

前売り入園券特典!  
先着200名にうちわプレゼント!

**7/28**  
東日本大震災支援 因島ビースコンサート  
原田真二フラーベンセンター野外ライブ

時間/18:00~19:30  
チケット代1,000円



因島空襲の日に平和を共に考える  
原田真三さんと一緒に歌おう!

## ほくそ笑む

### 時間



安藤朋生 とよまき 茨城県

島に魅力があるように、自分も魅力的な人になろうと日々努力している。・・・と思う。ん?本当に努めているのか?!努めているのであれば疑問に思うのは可笑しかろう。その通り。

いいやいいやで37年。大いに焦るもどうしていいのか分からず、とりあえず踏み台昇降30分。黙々と上がり下りたり。節電と言われるより前から節電対策ばっちりな田舎道。街灯の少ない、いや"ない"道を夜な夜な歩くなど怖くて出来ずエアロバイクを購入する気になれば、仕方なく家の階段を踏みしめてみることに。...ああ飽きる。

単調な動作ほど苦しくて、楽しいことなどない。だから日々楽しむ心を忘れないように生き

ているのは、誰もがそうだと思っていた。が、話してみるとそうでもない人達って沢山いる。いてビックリした。じゃー何が楽しいの? 大抵"子供"とかと答える。唖然とする。だって、子供は親元から巣立つ。親はその巣立ちを手伝うにすぎない。

確かに子供は可愛いけれど、子の人生と自分の人生は違う道筋だ。そして一様に子供が手を



⑫

離れていくことに寂しさを感じている。それも分かるけど、依存し過ぎではないのか???

これから自分の時間が出来るじゃん! こんな私の考えが受け入れられる訳もなく、安藤さんってドライよねと、冷ややかな目で見られる。

カメラマンを志す娘をどうやって育てたのかを最近聞かれることが多くなった。別段これと

いったことはしていない。強いて言うなら、親の私自ら遊ぶことが大好きであるところくらい。

写真を撮る、映画や芝居を見に行く。気になるカフェに行きオーナーさんや、スタッフさん達と話したり、流れている音楽を口ずさみ、買うこともないお気に入りの家具見たさに毎週末通ってみたり。そういう姿を否が応でも娘は目にしてきた。

普通のお母さんがいい!と言って泣かれたこともある。しかし18歳の今、ママで良かったと思うとぽつりと言ってくれたことが嬉しかった。

普通のお母さんは安心感があるけど、今の自分に普通のママの姿なんて考えられない、とも。く~っ、いいこと言うね~!

引くことを覚えなきやならない私と、引っ込み思案過ぎる娘。バランスがいいこの関係を大切にしなきや!

もっともっと魅力的な女性に育てられますように、と今日も階段を踏みしめてはほくそ笑むのだ。